



鬼怒川堤防決壊(茨城県)H27.9



土砂災害(広島県)H26.8



那賀川はん濫(徳島県)H26.8

“水害に強いまちづくり”のための 住民タイムライン作成と重点対策 ～私たちが出来ることから、始めよう～

第3回 水害に強いまちづくりワークショップ

13

ワークショップ検討の進め方

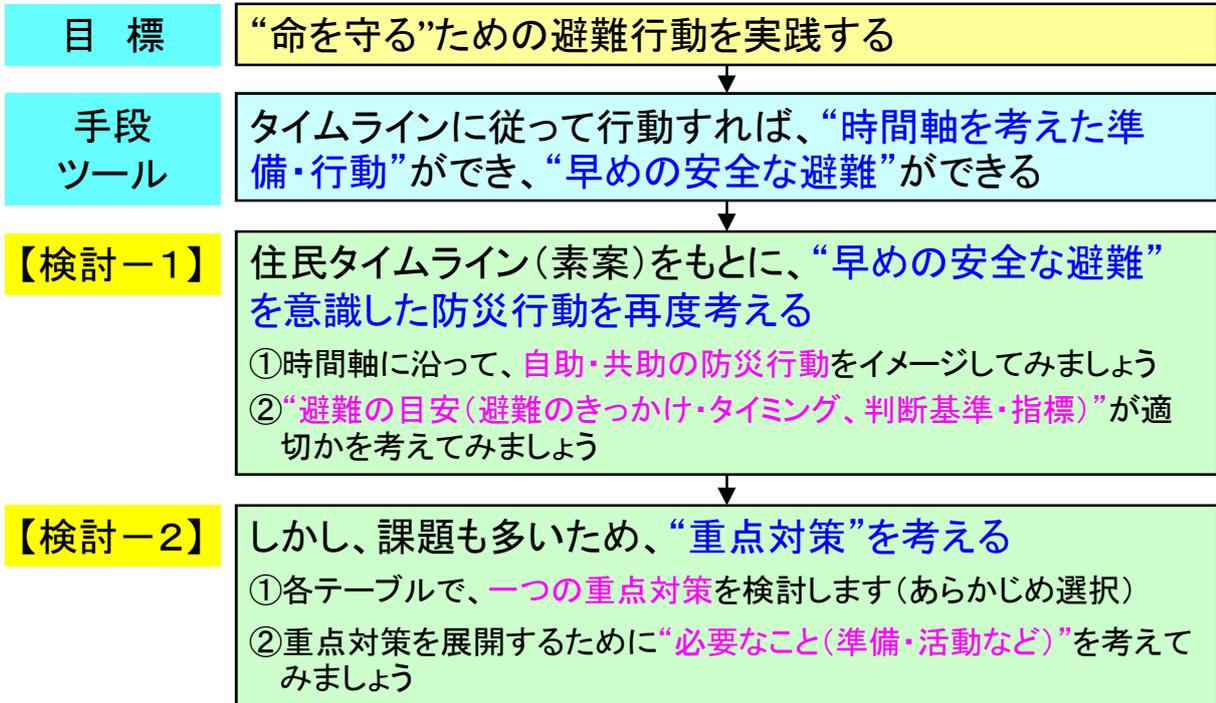
- | | |
|--|-----|
| <p>1) 概要説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ①ワークショップ検討の進め方 ②災害警戒期の住民タイムライン(素案)の説明 ②チェックイン(各テーブル) | 25分 |
| <p>2) 検討-1【住民タイムライン(素案)の検討】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①検討の内容: 住民タイムライン(素案)の確認と修正 ②検討の方法: タイムラインシートに記入、意見カードに記入 | 40分 |
| <p><休憩></p> | 10分 |
| <p>3) 検討-2【共助による重点対策の具体的な取り組み検討】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①検討の内容: 重点対策5項目から1項目を検討
重点対策の展開のために必要なこと(準備・活動内容をアイデア出し) ②検討の方法: 意見カードに記入、意見カードの分類 | 35分 |
| <p>4) 全体ふり返し</p> <ul style="list-style-type: none"> ①テーブルの発表 ②本日のまとめ ③チェックアウト(各テーブル) | 20分 |

合計130分

14

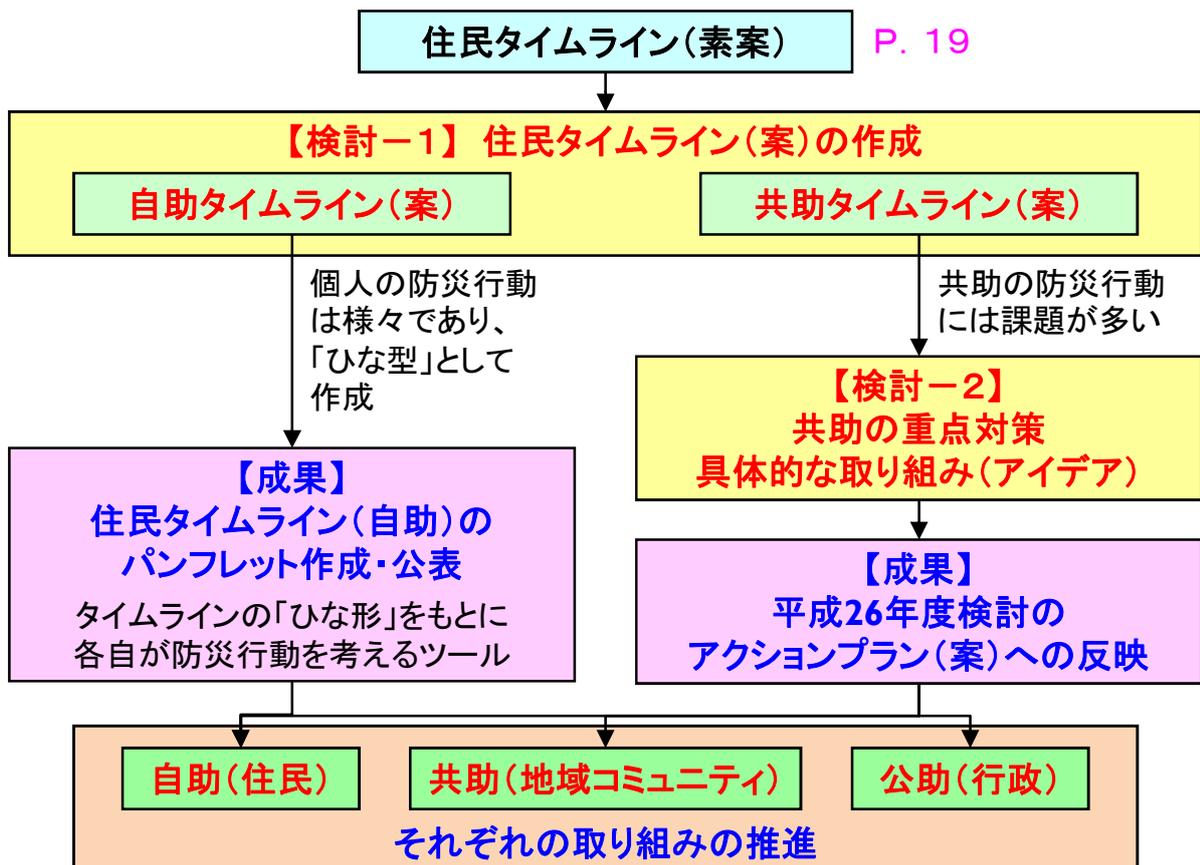
ワークショップ検討の内容

＜検討テーマ＞：“水害に強いまちづくり”のための
 住民タイムライン作成と重点対策
 ～私たちが出来ることから、始めよう～



15

ワークショップ検討の流れと成果



16

住民タイムラインのパンフレットのイメージ

【基礎情報】

土器川の特徴
地域の特性

防災行動
の留意点

避難の目安
(避難のきっかけ・タイミング)

【ひな形】

住民タイムライン (自助)の「ひな形」

- ①情報収集
- ②避難の準備
- ③家族との連絡
家族の安否確認
- ④自宅の水防活動
- ⑤早めの避難行動
避難行動
緊急避難行動

【各自で記入】

自分のタイムライン を考えてみましょう

- ・「ひな形」の①～⑤を参考に、一連の防災行動を考える
- ・複合災害(河川氾濫、内水氾濫、土砂災害など)を踏まえて、避難行動(避難の目安、避難先)を考える

本ワークショップ(第1回～第3回)
で意見集約した結果

17

アクションプラン【防災行動計画(案)】の重点対策

平成26年度検討
(行政による検討)
土器川モデル地区におけるアクションプランのための重点対策

住民意見の反映
(地域住民と地域行政の連携)

検討テーマ	重点対策	具体的な行動内容(準備・手順)
テーマ1 【情報】 住民目線の災害情報のあり方	1)土器川水位・危険情報表示板の設置	①下流での基準水位観測所(丸亀橋)の設定 ②避難時間を確保するための水位予測手法の検討(土器川本川および支川) ③危険情報の表示方法の検討 ■水位情報等の危険情報を自宅等で見られる仕組み(CCTVやNHKデジタル放送での情報提供など) ■土器コミュニティセンターへの危険情報表示板の設置 ■宇多津ゴールドタワーのようにLEDで色表示 ■「かがわ防災ポータル」での情報提供(広報活動)
	2)一時避難場所(3階建て以上)の設定	①事前調査:3階建て以上の建物調査 ②現地調査:住民意見の聞き取り調査、まち歩き ③一時避難場所の設定 ■公共機関の建物はすべて設定(協力依頼) ■一時避難所に指定された施設への優遇措置(必要に応じて備蓄、器具等の提供)
テーマ2 【連携】 地域コミュニティの活性化と地域連携体制の強化	3)防災士等と連携した地域防災リーダー育成、地域防災力向上の仕組みづくり	①地域防災リーダーの人選 ■人材の発掘(出前講座等による意識啓発) ■警察、自衛隊、市職員、消防団等の防災に関わってきたOBや防災エキスパート、水防専門家等の協力 ■地区単位での、現時点でリーダーに成り得る人材の把握 ②地域防災リーダーの育成 ■香川大学での防災士養成講座や四国防災・危機管理特別プログラムの受講 ■防災士取得・活用の仕組みづくり(市認定による地域防災リーダー化) ③地域防災力向上の仕組みづくり ■防災士等の有資格者のリーダーによる仕組みづくりの協議 ■公募形式による地域での取り組みの支援事業(防災教育講座を受講すると採択に有利など)
	4)防災関係機関と地域コミュニティが連携した防災教育・訓練の仕組みづくり	①防災担当の配置 ■市職員でのまちづくり防災担当(地域コミュニティ担当)の配置 ■自治会毎の防災担当の配置 ■自主防災組織会長を自治会長とは別に選任 ②防災教育の実施 ■出前講座等による防災教育 ■防災士、河川管理者、消防、教育機関等が連携した防災教育 ③防災訓練の実施 ■小学校との協働による防災訓練 ■土器川水防演習(H28年度に実施予定)への地域の参加
	5)災害時要配慮者の避難支援体制の整備	①災害時要配慮者リストの整備 ■災害時要援護者名簿(避難行動要支援者名簿に移行)の有効活用 ■自治会に入っていない住民への対応 ■地域毎での支援者(誰が誰を助けるのかの役割・担当)の設定 ②地域連携による対応 ■自主防災組織、自治会、民生委員、消防団、地域コミュニティ等での情報共有 ■地域コミュニティ内での連絡網作成 ■地域コミュニティと企業との協力体制
	6)防災関係機関と地域コミュニティが連携した情報共有の仕組みづくり	①事前事後情報の共有手段・内容の詳細設定 ■情報共有の対象・項目の設定 ■情報共有手段(通信手段)の整備 ②地域コミュニティの情報伝達体制づくり ■防災関係機関と地域コミュニティの間で連絡網を確保し、避難者を教養できる体制づくり

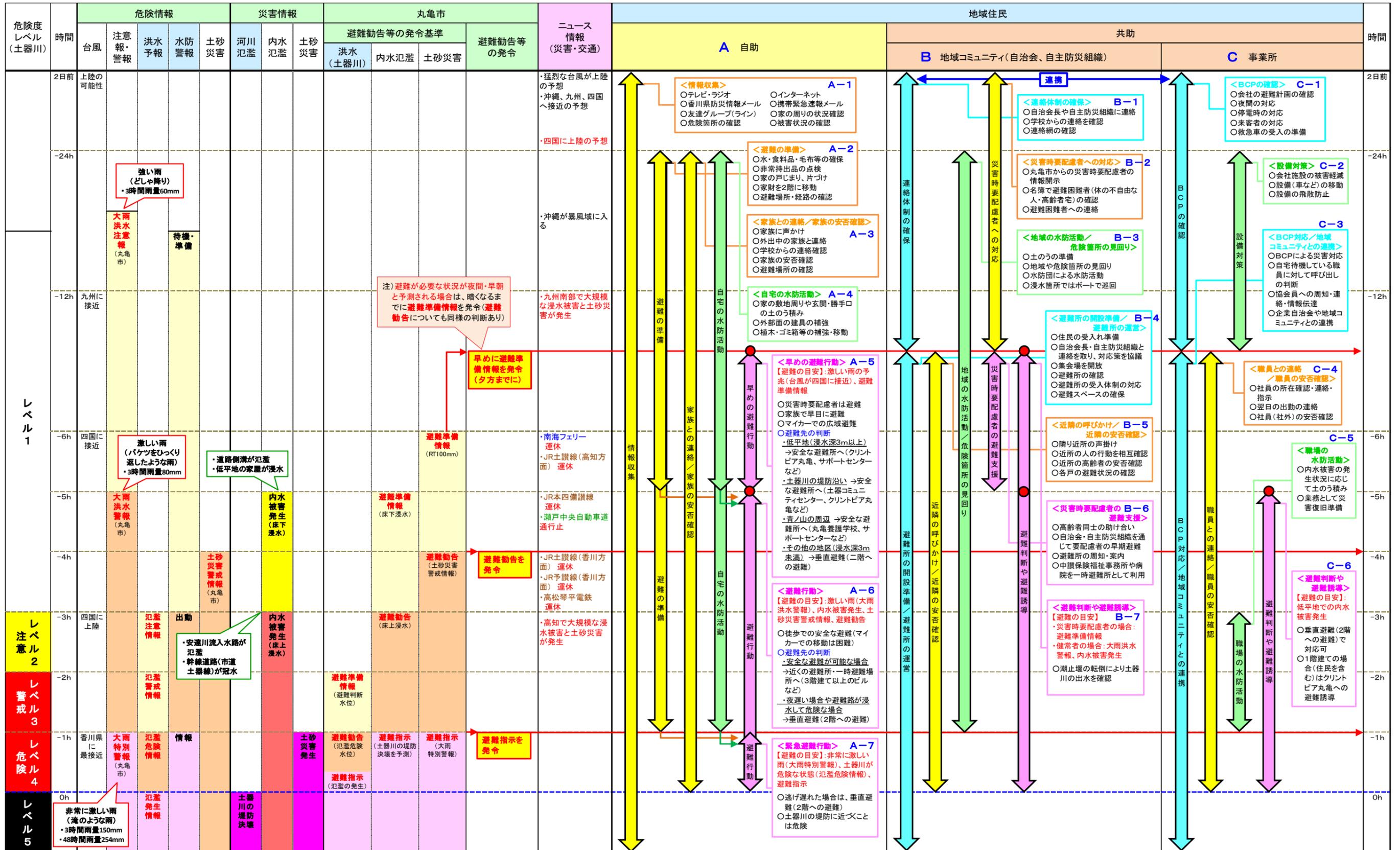
平成27年度検討(住民による検討)

【検討-2】「共助による重点対策の具体的な取り組み検討」
で検討した取り組み内容(アイデア)

18

土器川モデル地区(土器町東・北)における住民タイムライン(素案)

※ 第1回・第2回ワークショップにおける参加者からの意見を集約し、自助・共助のタイムラインを並記してとりまとめたもの



タイムラインを考える上での留意点(再確認)

【土器川の河川特性およびモデル地区の災害特性】

- ・土器川は、急流河川であり、**水位上昇が非常に早い**。
- ・低平地では**3m以上の浸水**、土器川堤防沿いでは**家屋倒壊**、**青ノ山周辺では土砂災害**が発生する危険性がある。

【避難の目安(避難のきっかけ、タイミング)】

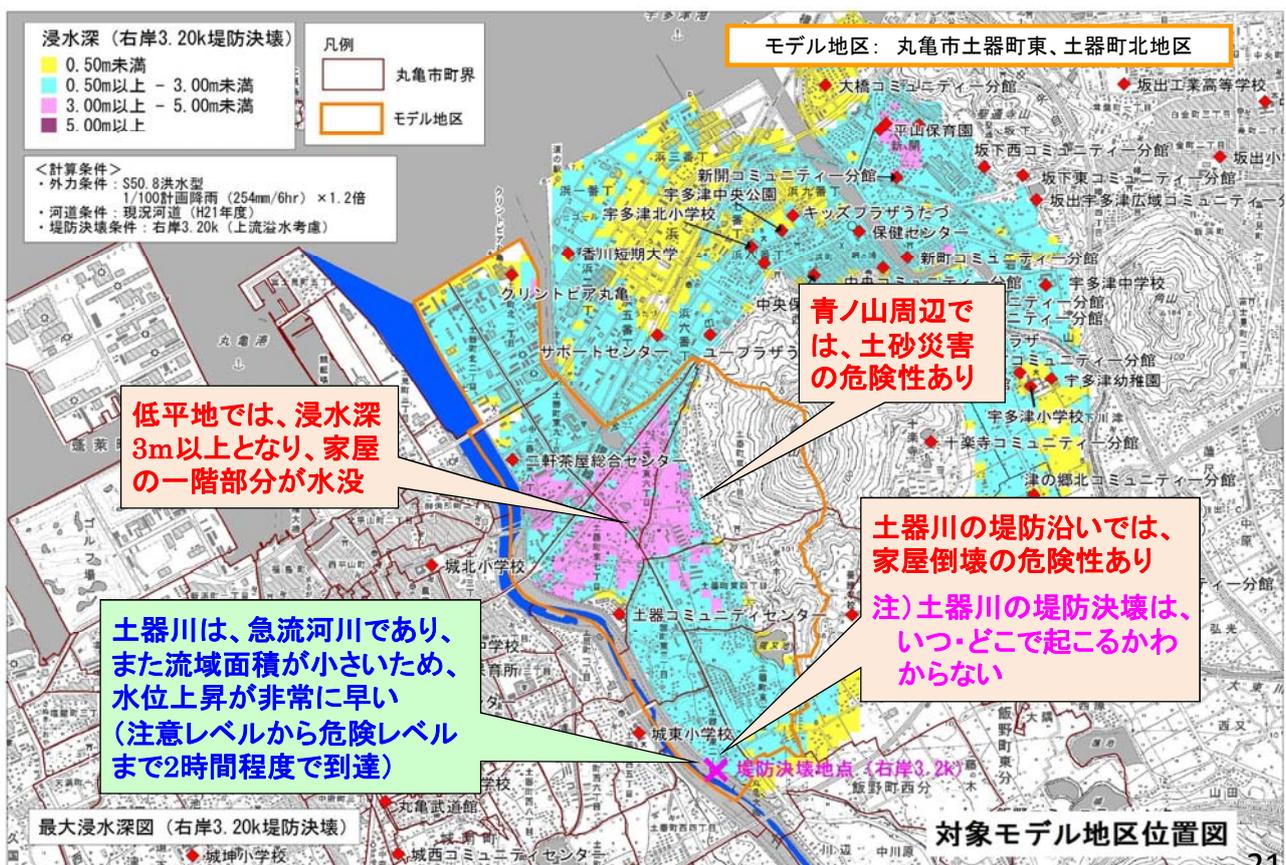
- ・大規模な水害は、土器川流域でも起こり得るとの危機意識を持ち、**最悪の事態を想定**して、防災行動を考える。
- ・土器川の堤防決壊場所や時刻はわからないため、**堤防決壊時刻からの逆算**はできない。
- ・**“リアルタイムで得られる情報(①気象情報や交通途絶情報の広域的な情報、②土器川水位や内水被害の身近な情報)”**をもとに判断する。

【土器町東・北の地域特性を踏まえた避難行動】

- ・**“命と財産を守るための早めの避難行動”**が必要。
- ・特に、**“マイカーでの避難”**は、道路の浸水や渋滞により避難所にたどり着けない危険性があるため、**“早めの避難行動”**が必要。
(事例) 鬼怒川の堤防決壊時にも、道路が渋滞し、避難所にたどり着けず

20

土器川の河川特性およびモデル地区の災害特性



21

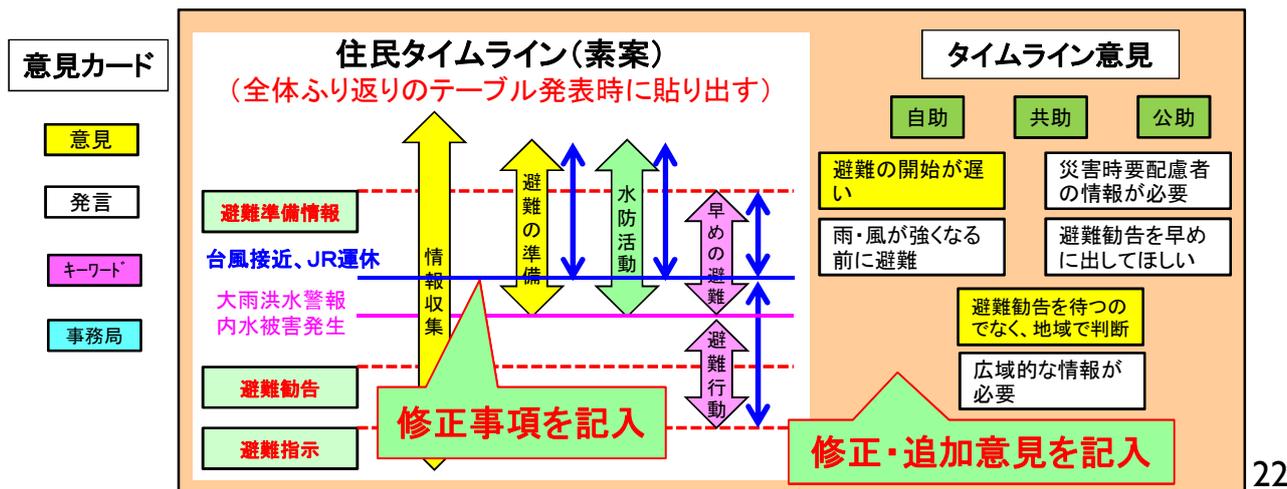
【検討－1】住民タイムライン（素案）の検討

～“早めの安全な避難”を意識した防災行動を

もう一度、考えてみましょう～

- ①時間軸に沿って、**自助・共助の防災行動**をイメージする
- ②自分の住まいや職場を基準にして、“**避難の目安(避難のきっかけ・タイミング、判断基準・指標)**”が適切かを考える

◆タイムラインシートに記入、意見カードに記入



22

【検討－1】住民タイムライン（素案）の検討

<検討手順>

①タイムライン(素案)の構成を確認

- ・時間軸、各種情報(危険情報、災害情報、避難情報、ニュース情報)、自助タイムライン、共助タイムライン(地域コミュニティ、事業所)

②“避難行動(ピンク矢印)”に着目し、記述内容を確認

- ・自助: 早めの避難行動(A-5)、避難行動(A-6)、緊急避難行動(A-7)
- ・共助: 災害時要配慮者の避難支援(B-6)、避難判断や避難誘導(B-7)、避難判断や避難誘導(C-6)

③避難行動についての意見交換 (タイムラインシートに記入、意見カードに記入)

- ・テーブル1～4 : A自助とB共助(地域コミュニティ)を対象
- ・テーブル5 : A自助とC共助(事業所)を対象
- ・避難の目安(避難のきっかけ・タイミング、判断基準・指標)は適切か
- ・記述内容について修正や追加はないか

23

【検討－２】 共助による重点対策の

具体的な取り組み検討

～各テーブルで、重点対策を検討します～

- ・第2回ワークショップの意見を踏まえて、重点対策5項目の中から、テーブル毎に1項目を検討(あらかじめ事務局にて選択)

テーブル	重点対策5項目 (共助による取り組みが必要な5項目)	意見が出た テーブル
1	災害時要配慮者の避難支援・誘導を行うには	1, 3, 4
2	地域コミュニティを活性化するためには	2, 3
3	避難所の開設準備や運営で支援できることは	1, 2, 3, 4
4	地域コミュニティ(自治会・自主防災組織)内の連絡体制を強化するためには	1, 2, 3, 4
5	事業所としての地域支援の具体策は	5

24

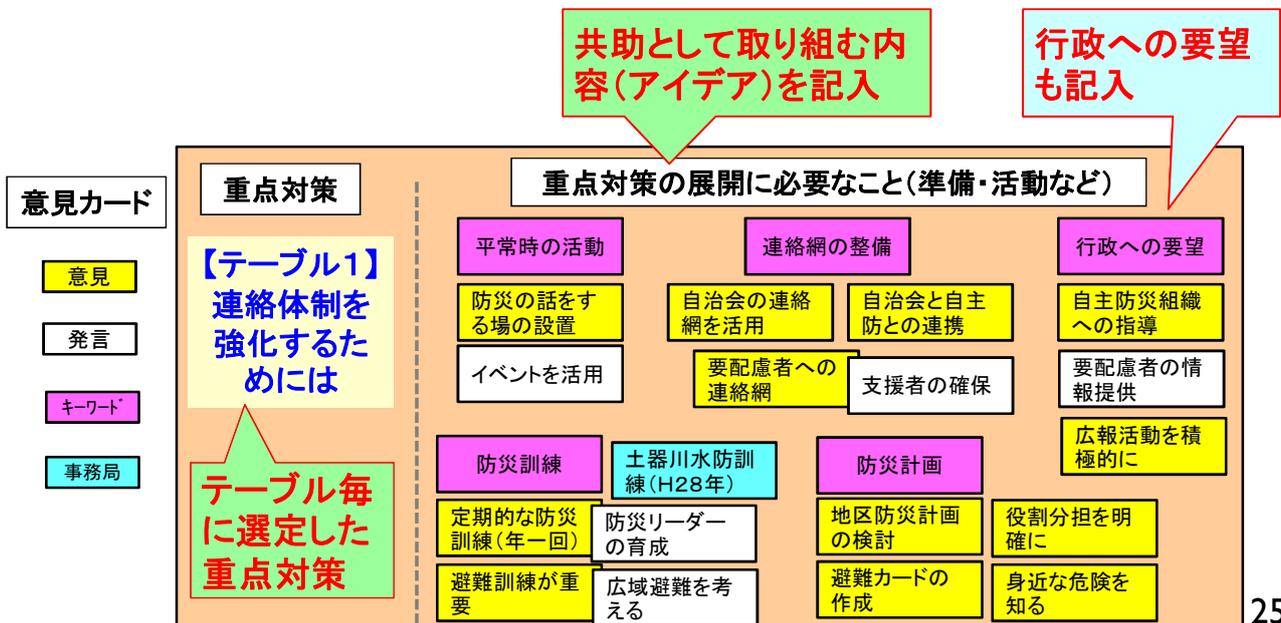
【検討－２】 共助による重点対策の

具体的な取り組み検討

～“重点対策”を展開するために

必要なこと(準備・活動など)を考えてみましょう～

◆「意見カード」に記入、「意見カード」の分類



25

全体ふり返り

① テーブル発表

- テーブル毎に発表（5テーブル×2分）

② 本日のまとめ

- ふり返り（ファシリテータ）
- 総評（会長代理）
- ワークショップ検討結果の報告
 - リバーキーパーズ通信、ホームページ等での結果報告
 - 「第4回 土器川における水害に強いまちづくり検討会」での結果報告、アクションプラン(案)への反映
 - 住民タイムラインのパンフレット作成に向けた検討

③ チェックアウト

- 各テーブルで、順番に全員が発言（一人30秒以内）